

自己評価及び外部評価結果 かぼちゃ

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175400472		
法人名	有限会社 まつお		
事業所名	グループホーム はな 佐呂間		
所在地	北海道常呂郡佐呂間町字宮前町162-13		
自己評価作成日	平成30年2月16日	評価結果市町村受理日	平成30年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は佐呂間町中心部に位置し住宅地の中にあります。 広大な敷地の一角にホームがあり、南側に向けた大きな窓からは陽が入り明るいです。施設の周りの畑には、春は野菜や花の種まきを行い 夏はひまわりが畑一面に咲き、秋にはコスモス、冬は雪景色と開放感いっぱいです。 夏から秋にかけ畑でとれた野菜を、利用者と職員と一緒に収穫し、調理を行い役割や達成感などをもった生活を支援しています。その他に月一回の道路清掃で近隣の方々との馴染みの関係作りを行い小さな交流が維持できるよう支援しています。職員は利用者の生活ペースに合わせ笑顔で接する事を心掛けています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	hlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigvosyoCd=0175400472-008
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	平成30年3月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

佐呂間町の中心部の住宅地にあり付近は畑が広がる自然な場所に開設され、利用者と職員が話をしながら自分たちが暮らすにはと問いかけて「安心して 共に過ごせる 思いやりと 笑顔の和」を理念と定め毎日の介護に取り組んでいます。毎朝、利用者とのラジオ体操後に唱和し、最後に両手で輪をつくり 和とポーズして楽しんで取り組んでいます。職員は毎日の介護の中で常に理念ができていないかを問い返しており、その中で笑顔を重要視し、外での嫌な事や困ったことで暗くならないよう戒めています。また、皆と毎日笑顔で暮らしたい、自分がその立場ならどうだろうかを自問し、嫌な事は決して行わないとの固い決意で仕事に取り組んでいます。利用者を第一に考え要望に応えられるよう関わりの時間を大切にしています。事業所では現在4名の清掃を担当する職員がおり常時複数の職員で事業所内の清掃に携わり、清潔で綺麗に片付いた気持ちの良い居住空間を提供しています。管理者は職員の主体性、自主性を大切にし、会議の時間や議題、勉強会の方針等自分たちでの取り組みに任せています。勤続10年で研修旅行に行く事が出来て職員の励みになっており利用者、職員を大切にするグループホームづくりに努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者と職員が決めた理念を、ユニット毎に目のふれやすい所に掲示し毎朝、唱和している。	利用者と職員で、どんなグループホームに住みたいかの話の中で決めた理念を事務所、ホールに掲示しており、毎朝体操後に一緒に唱和して介護の実践に繋がるよう取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の道路清掃に参加し馴染みの関係作りを心掛けている。毎年高校生の介護体験学習やゴスペル慰問を通し地域交流を図っている。	代表者が住んでいる町内であり清掃活動に参加したり、かぼちゃ祭り見物に出かけています。秋の神社大祭にはお神輿が来るので地域に呼び掛け町民が集まり交流ができています。また、高校生の体験学習を受け入れ認知症の理解に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には地域の方々にも参加して頂き、認知症の病気の理解をしてもらえよう努めている。散歩やドライブなどで日常的な地域交流で支援している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に開催し利用者状況・行事・意見交換を行っている。会議の内容などが記載されたファイルは職員の目につく場所におき閲覧できる。	運営推進会議は概ね2ヶ月毎に、利用者、利用者家族、町内会役員、町担当者、地域包括支援センター職員、民生委員、駐在所、消防署の出席を得て開催し、質問、意見を頂き運営に活かしています。議事録は欠席した家族に送付し情報を共有しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の介護保険課、地域包括支援センターと利用者の待機状況や介護保険更新認定調査などの協力を行い実情を伝え取り組んでいる。	町担当者には運営推進会議に出席して頂き意見や指導を得ています。管理者はキャラバンメイトとして町の会議に出たり、介護保険更新時や指定基準について多くの助言を得ており積極的に相談を行って協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の身体拘束委員会で身体拘束につながる行為などを確認しながら拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止に向けては職員による身体拘束委員会があり年2回の内部研修に取り組んでいます。その他、ミーティング時や他の研修時にも虐待問題と合わせて随時議題にあげており適切な介護を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し年2回虐待について勉強会を行っている。また意識のない虐待が行われていないか日々の生活の中で話し合い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方はいない。勉強会などで成年後見制度について学ぶ機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書の説明時に生活面・金銭面の不安や疑問点を確認し解消できるよう話し合いをしている。改定時は家族会で説明を行い理解と協力を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。利用者・家族の苦情や不満は「要望」「希望」と受けとめ運営に反映している。	利用者、家族の意見や要望は日常の会話の中や面会時に把握するように努めています。意見箱は設置してあります。	利用者家族への情報は会話のみと成っていません。お便り等での日常の様子などの定期的な情報提供を期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや勉強会などで職員の意見を聞く機会を確保している。またそれ以外でも直接意見を聞き都度、対応している。	職員からの意見や提案は日常業務の中や毎月の会議、月2回行う勉強会の時に把握しており運営に反映しています。職員には六つの委員会どれかに所属してもらい勉強会の主催を任せています。会議の日時や議題等職員の主体性を尊重しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善交付金の活用と代表者・管理者は職員と共に勤務に入り状況把握に努めている。やりがい・向上心の部分は職員の力量を考慮しストレスのない環境作りを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修に参加できるよう情報共有を行い回覧、参加希望を取り受講機会を確保している。会議などで研修の伝達講習を開催し情報共有とスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し研修会の参加を通して同業者との接点や交流の機会の確保に取り組んでいる。地域の安心ネットワーク会議に参加して各施設や地域の方々と交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にあたり家族さんからの情報収集 施設見学後本人様との面接にて不安や望みを聞かせて頂きサービス開始後も1対1でゆっくりお話しをする。時間を設け傾聴し不安の軽減をしながら信頼関係を築く様努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に施設見学を進め困り事不安要望を聞かせて頂き施設生活での相談には誠意を持って応え不安解消に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前のアセスメントと本人家族の意向を把握し安心してサービスを受けることが出来るよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎朝スタッフと利用者様でラジオ体操 歌を楽しみながら共同生活の中で支え合う関係を築き、日々の生活の中では利用者様の知恵や経験を活かし互いに助け合い感謝し合える関係を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の面会時日頃の情報を提供しています。町外の定期受診の対応は御家族に協力して頂き共に本人を支える関係を大切にしています。年中行事には御家族さんへ参加を呼びかけ利用者様と御家族、職員が一緒に楽しめる時間がもてるよう努めている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホールに公衆電話があり友人や家族への電話連絡や年賀状など馴染みの人との関係が途切れないように支援している。家族友人などの名前や思い出話を聞かせてもらうことで遠い記憶にならぬよう工夫しています。	利用者の知人の訪問があり、楽しそうに懐かしんでおり、関係が途切れない様に努めています。嘗ての馴染みの美容室等への訪問は少なくなり訪問美容で支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間はスタッフが傍におり利用者同士が自然に会話が持てるように支援している。その中でスタッフは互いの関係に配慮し座席を決め相互関係を大切にしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去の方には定期的なお見舞いを心かけており 御逝去された方々には一周忌に御供花を送らせて頂くなど御家族様とのほど良い関係に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の発言や表情を観察し記録し意向や望む生活を把握できるようにミーティングなどで話し合っている。	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の意向は、生活歴や本人、家族との会話の中で把握し生活記録や連絡ノートに記入して職員で共有し実現できる様に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族の協力を得て生活歴や暮らしの情報を聞き取りしている。また生活の中で本人から今までの暮らしを聞かせて頂くなどコミュニケーションを図り信頼関係作りに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の生活記録を記入している。バイタル測定 水分チェック 排泄チェックなど行い心身状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者様の担当者を決めている。毎月のモニタリング6ヶ月おきのアセスメントを通じて現状把握をしている。本人家族とは面会時などに意向が変わりないか確認するようにしている。	介護計画は基本的に6ヶ月毎に利用者、家族の要望を把握して見直しています。毎月全員でカンファレンス、に取り組み、サービス担当者会議、モニタリングを行っています。生活記録にはサービス提供が介護計画のサービス番号#で表記されており見直しに役立っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別の生活記録に介護計画に沿った内容には#を記し情報共有している。また介護支援専門員はその経過を確認しながら介護計画の見直しに活かしている。何事においても気づきがあった場合は報連相ノートに記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関への受診援助や本人希望の自宅への一時帰宅の支援など職員間で調整しながら出来ることは柔軟に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全に豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	秋祭りは施設に神輿、踊り山が来る。また地域のイベント見学や各慰問受け入れで安全に楽しい暮らしができるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町内の受診は施設で行い町外は家族に対応してもらっている。特変時は家族と相談し医療機関を決め受診している。当施設の看護師の支援も受けている。	町内に医療機関は1件だけであり内科の定期受診は事業所に対応しており、他科への町外の受診は家族に協力をお願いし、連携が取れるよう取り組んでいます。看護師の職員が在籍しており24時間対応で適切な医療が受けられる様支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の状態を見て変化があったら職員同士で情報を共有しあい看護師 管理者に報告し指示をもらうようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には医療機関と情報提供している。入院時はできるだけ早くお見舞いに行くようにし認知症の進行予防と病院関係者との関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・終末期の対応についての説明と同意書をもっている。その時期が近づいてきた時には家族と何度も話し合い医療機関とも相談しながら本人家族が安心と後悔のないような支援を心掛けている。	重度化した場合や終末期の看取り介護については、入居時に重度化した場合における対応に関する指針、重度化及び看取りに関する指針、看取りに関する指針で説明し、理解と同意を得ていますが、現在は医療機関が整わず、食事が取れなくなった時点で他への移行に成っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルを作成。職員は普通救命救急講習を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間を想定した避難訓練を行い防災委員会を設置し勉強会で災害対策についての話し合いを行っている(前期後期に分け2回開催)	火災の避難訓練は年2回夜間を想定して、消防署の助言と指導、地域住民の協力を得て行っています。その他ライフラインの断絶等の対策もポータブルストーブの用意や水等備蓄を行っており防災体制を築いています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員会を設置し勉強会で職員間教育を行っている。利用者の目線に合った声掛けを心掛けるよう見える場所に「良い環境づくりの心得」を貼っている。	利用者一人ひとりの人格や羞恥心を損なわない対応を心掛けています。接遇委員会があり年2回の勉強会や毎月のミーティングで事例を話し合いながら適切な対応ができるよう取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	季節の行事や誕生日には好みのメニューを聞き調理している。また一言挨拶を行ってもらっている。レクリエーション作業は強制せず無理のない範囲で行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	突然の外出など急な要望に対応できないこともあるが対応できる時間を伝えたりパート職員の協力をもらうなど利用者を制止しない柔軟な対応に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度の理容師訪問を行っている。毛染めなど本人の希望がある時は本人と一緒に職員が協力している。行事や外出などの身支度やお化粧はお手伝いや相談にのっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備が出来る利用者様には食材の下ごしらえ副食の盛り付けを職員と一緒にやっている。下膳配膳なども一緒に行っている。	シフトの職員がその日に利用者の状態や好みを考慮して献立、調理を行っています。調理担当職員も随時行っており、利用者と一緒に行事もあります。また、次回の食事用のおかずを数品作り時間節約に繋げています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量 水分量などの記録 メニュー表記載と職員間で情報を共有している。嚥下困難な方や偏食などある方には食事形態の工夫を行っている。「バランスの良い食生活」が出来るよう心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔衛生を行っている。夜間は義歯を洗浄剤につけ職員が磨きなおしている。また口臭予防に洗浄液でうがいされる方もいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人別の排泄チェック表を作成し個人の排泄パターンを把握してトイレ誘導をしている。夜間も出来る範囲でトイレ誘導している。	一人ひとりの排泄チェック表で状況を記録して、パターンやシグナルを職員全員が把握できるよう努め声掛け、誘導を行っています。便器の位置を工夫し、介助がしやすく、利用者にも負担の少ない配置に成っています。1日に4回程度の清掃を行って清潔を心掛けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の牛乳飲用。朝食時のヨーグルトは毎日の習慣としている。朝の体操や廊下歩行運動も行っている。夏には職員と外で外気浴や散歩もしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1週間に2~3回入浴を行っている。利用者と職員で着替えの準備など行っている。浴槽に入れない利用者様はシャワー浴で対応している。	入浴は週3回程度利用者の希望や状況、状態を見て行っています。大きめな浴槽で壁には多数の手摺が取り付けられてあり、ゆったりと入浴する事ができます。入浴剤で気分転換を図る事もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて朝の体操参加、歌やゲームなど集中する時間を設けている。その後温かい飲み物で休息をとっている。体調により自室で休んだりホールのソファで横になる方、うたた寝する方と夜間の安眠環境作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	自己の担当する利用者さんの薬の仕分けや処方箋ファイル 次回の受診日の把握。服薬の飲み易い工夫、飲み忘れなどないように飲み終わるまでの確認とスタッフ間で確認作業もやっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の盛り付け 洗濯物干したたみ 新聞たたみ 塗り絵 床のゴミ取りなど毎日の生活の中で無理のない役割を持って頂き支援している。嗜好品に関しては家族が個人の好きなお菓子を持参。行事には少し手の込んだ料理を提供し出し物では皆が楽しめる内容を考えている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏は散歩や外気浴を行っている。帰宅願望のある方には職員で話し合い車で自宅までドライブ、徒歩での外出など利用者の希望に添えるよう努めている。	外出は気候が良くなると、花を見に出かけたり、道の駅へドライブがてら出かけ冷菓を食べたり、おやつを食べて気分転換を図っています。事業所の前にはログハウスがあり広い畑が広がっており散歩や外気浴を楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その人の能力に合わせ個人で管理されている方もいるが保管場所を忘れてしまう時があるためスタッフは一緒に探し本人が見つけれられるような誘導を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホールには公衆電話があり自由に電話がかけられる。かけ方がわからない方にはスタッフがかけている。御家族の都合もあり状況に応じた対応をしている。手紙の切手は施設で用意してあり購入できる。施設で投函している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには大きな窓があり日光がたくさん入り温かく来客者が見え誰が来たか見やすいようになっている。廊下は余裕で車椅子がすれ違える広さになっている。トイレは誘導順を考え混雑しないような配慮をしている。歌好きの方には歌番組のビデオを流し楽しんで頂いている。	各ユニットの出入口には花や鉢植えが色彩良く落ち着いた感じで置かれており、水槽に小魚が泳いで、癒される場所に成っています。居間は天窓やベランダがあり、明るく、広く、開放感がある作りと成っています。冬期間は加湿器等を使い適切な環境に成る様管理されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファでは気の合う者同士が隣同士に座り昔話に会話がはずんだりテレビを見てコメントし合うなど思い思いに過ごしている。編み物をしている方もいる。また独りになりたい方は食卓椅子に座り距離をおくことができている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使っていた椅子や飾り物などを必ず1つは持参するようお願いしている。また自宅の寝室の家具配置に近づけられるよう情報をもらい配置決めをして環境の変化が少なくなるよう配慮している。御仏壇を持ってきている方は朝に水やご飯をお供えている。	居室にはクローゼット、ベットが配置されており、1階には棚が壁付きと成っています。利用者の使い慣れた筆筒、椅子等の家具が置かれており、仏壇や家族の写真、絵、人形を飾り自宅同様に居心地良く生活できるよう工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで廊下やトイレ浴室などに手すりが設置されている。歩行運動をされる方がいるのでテーブルや椅子の配置を考え動きやすい空間作りをしている。居室のドアにはのれんが掛けてあり自分の居室がわかるようにしている。対面キッチンなのでホールからのサインや見守りができる。		